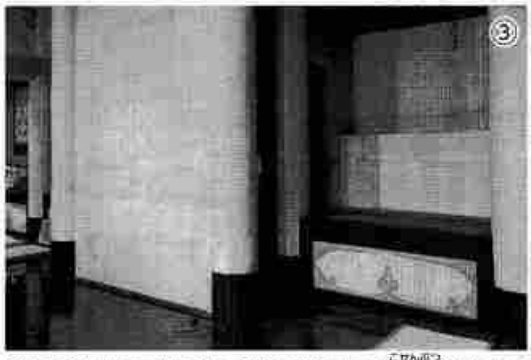
はい浄福寺です。

浄福寺
門徒会発行
☎ (025)536-2532
FAX (025)536-2674
✉ jofukuji@alpha.ocn.ne.jp

いよいよ本堂内陣修復の始まりです



①御移動されるご本尊　②9月10日に「御遷仏法要」を役員数名と勤めました。「遷」とは移すという意味があります　③すっからかんのお内陣

「金」の値がここへきて高騰しています。まだ、高騰する前に抑えることができて良かったと思っています。それでもやはり高額であることには間違いありませんが、有縁の皆様のご理解とご協力により、いよいよ修復にとりかかることができました。

常香盤など一部がすでに修復を終えて戻ってきています。ご都合がつけば見に来てください。とても綺麗になりました。

9月10日に本堂内陣の「宮殿」「須弥壇」そして「御本尊」を搬出しました。歴史的な場面ですので、役員の方にも来て頂き、搬出する前に本堂でお勤めしました。

浄福寺は、鎌倉の源氏の武将井上忠長が越後へご流罪になっていた親鸞聖人と出会い、開基されました。もうすでに824年の年月が経っています。その間、三度の類焼に遭いながらも、大事な法灯を受け継ぎ、守ってまいりました。

親鸞聖人は、旅立ちの時に忠長に次のように言われました。

「汝が志　誠に神妙なりと雖も、舘へ帰り妻諸共に尊重して、仏恩喜ぶべし。我が供奉致すよりは、宿に帰り同行一人なりとも勧め、我が苦労を救わば、甚の悦びなり。」

聖人のこのお言葉から始まった浄福寺です。それから私で28代目になります。ご縁が有り、この浄福寺に来て40年になりました。私も鎌倉時代から続いている法灯の1ページになることに喜びを感じています。私だけでなく、この度の修復にご協力下さった皆様も同じです。令和9年に「浄福寺継職法要」を勤めて次の住職に代を譲りますが、私も今までの皆様方との繋がりを大事にしておりますので、最後まで皆様の命を見守っていきたいと思っています。それが「ご恩返し」だと思っています。

もう一つ、浄福寺に伝わる掛け軸のお言葉を皆様方に紹介します。

「川越名号＊萬古の傳　由来は至って聖く徳は天の如し
此の場には是＊華蔵界　幾樹の桜花交わりて研を競う」　雲洞石禅和上

＊萬古の傳：とても古い歴史
＊華蔵界：報身如来によって建立された蓮華蔵世界。浄土真宗では阿弥陀仏の浄土

（意訳）
「川越の名号の伝来はきわめて古く　その物語はとても清く　徳は天のように高い。
この道場はそのまま浄土につながっている。どれほどの信心がここで美しさを競ったことだろう。」

これを書かれたのは新井白禅師です。白禅師は、曹洞宗大学林学監兼教授・曹洞宗第11代管長などの経歴を持つ方で、国内外の巡教は数百ヶ所に及び、その徳化は一世を風靡し生き仏と仰がれた方です。そんな方が浄福寺にこられた証となるお軸です。

日頃、本堂でお参りしながら壁などを見ると、やはり経年の汚れで黒ずんでいます。そこに長い歴史を感じます。ここでどれだけの法要が勤められてきたのだろうか…。どれだけ多くの門徒さんがここにお参りに来られたのだろうか…。

このたび、皆様と一緒に、美しく修復された本堂のお内陣・御本尊・仏具をお迎えできることを大変嬉しく思います。

住職　井上陽雄

新井白禅師のお軸

御本尊を支えている台座にいる天邪鬼。とてもかわいいです。これもお色直しします

死は存在しない　その5

工学博士の田坂広志さんが最先端量子科学を用いて書かれた『死は存在しない』という書物が、私にとってクリーンヒットとなりました。そのことが嬉しくって寺報第51号から第54号にわたって皆様方に紹介してきました。

第51号・52号では「自我意識とは、苦や不安、エゴに満ちた私であるが、死後その自我意識が徐々に消え、完全に自我意識がなくなった状態を超自我意識といい、至福の状態になる。これを仏教では、成仏といい涅槃ともいう。」という文章を紹介しました。

つまり、私たちの愛する人たちは死んだわけではありませんし、私たちも肉体は無くなるけれど死ぬわけではないということです。愛する人たちはいつも私たちを見守っているというのです。

第53号では「私たちに大いなる波動が届いていて、その波動を受け取る人は、人生がまだまだ好転していくというのです。その波動を受け取るには、ポジティブに生きなさい。そのためには、感謝するということだ。」という文章を紹介しました。

第54号では「もっと深く人の死を研究した結果、どんな人でも死後に21g消失するという不思議な現象を見たというのです。しかもそれが高次元の世界へ伸びていき、またその高次元の世界からこの世界へ降り立っているように見えた。」との報告を紹介しました。

お釈迦様の教えをしっかりと受け継いだ親鸞聖人は、『正信偈』に

「得至蓮華蔵世界　即証真如法性身　遊煩悩林現神通　入生死園示応化」

（蓮華の国にうまれては　真如のさとりひらきてぞ　生死の園にかえりきて　まよえる人を救うなり）

あるいは、

（まどえる身にも信あらば　生死のままに涅槃あり　ひかりの国にいたりては　あまたの人を救うべし）

と詠まれました。

まよえる人もあまたの人も、同じ意味で愛する人のことです。

あのアインシュタインは「科学文明を補うとしたら、それは仏教かもしれない。」と言われたそうです。

仏とは自利利他のはたらきをされる方のことです。今、生きている私たちが幸せになることが、仏になられた方の悦びだというのです。

今回の第55号では、死後、我々は「肉親」と再会できる（倶会一処）ということを紹介します。ここでも田坂さんの本に書かれていた文章を紹介します。

『肉体が消滅する「葛藤」や「苦しみ」が消え、「至福に満ちた世界」、「＊愛一元の世界」が現れることになる。「愛一元」とは、「超自我意識」へと変容した後、「愛一元」の意識になっていくのである。そして、すでに他界した肉親もまた、外見や個性は、かつての姿でありながら、その意識は「愛一元」の意識として我々と「再会」するのである。臨死体験をした人が、すべて、その「肉親」との再会を「愛に満ちた再会であった」と感じ、そう報告している。つまり、その人は、ジャッジする存在ではなく、いつも温かく包み込んでくれる存在である。

＊愛一元…愛や憎しみを分けない世界ですべてを包み込んでくれる無上の愛であり、まさに大慈悲心のことである。

「いつかこの生を終え、お二人（両親）に再会するときが来ます。そのときお二人は、「愛一元」の眼差しで迎えてくれるのでしょう。すでに「大いなる存在」と一つになられているお二人に、申し上げる言葉は、もう定まっています。

『素晴らしい旅を、有り難うございました。深い学びと成長の旅から、いま、戻りました。』』

鎌倉時代に、念仏弾圧によって、法然聖人とお弟子の親鸞聖人はお別れすることになりました。法然聖人は四国へ、親鸞聖人はこの越後へ流罪となりました。すでに80歳を過ぎておられる法然聖人とはもうこの世で会うことができないと嘆き悲しんでおられる親鸞聖人に、法然聖人が次のようにそっと言われました。

「別れ路のさのみなげくな法（のり）の友　また遇う國のありと思えば」

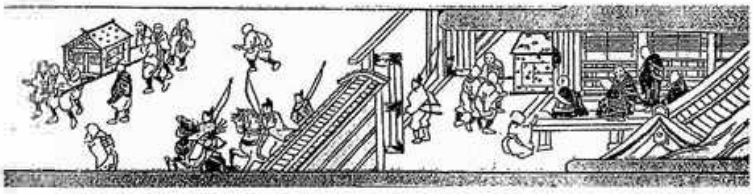
法然聖人は悲しんでおられる親鸞聖人にたいして「そんなに嘆き悲しまなくってもいいですよ。また遇う世界がありますよ。」と言われたのです。

そうして、その親鸞聖人が高齢になると、今度はお弟子たちに

「浄土にてかならずかならずまちまいらせそうろうべし」

と言われました。

物理学者もお釈迦さまも法然聖人も、親鸞聖人もまた遇う世界があると言って下さっています。心強いお言葉ですね。



お念仏弾圧によるご流罪の場面です。
親鸞聖人がこの越後へご流罪になる場面。右から二人目が親鸞聖人

報恩講前の境内草刈り清掃をしました

6月8日（日）の早朝5時30分より、浄福寺境内地に墓地のある方と役員とで、墓地と敷地内の草刈りをしました。伸びていた草が、皆さんのお力添えでいっぺんにきれいになりました。

いつものことですが、きれいになった境内を見て、自分自身の心もきれいになったような気がします。本当に早朝よりありがとうございました。心より御礼申し上げます。

その草刈りについて、ある方からご意見をいただきました。

一つめは、「自分の墓の周りの草刈りだけでいいのではないか?」という質問です。

私は「それでも結構です。」と答えました。でも、高齢になって草刈りもできなくなった人が増えてきました。その方もいずれ出来なくなると思うのですが、そんな時困るのではないかと思います。そして、どうしても刈り取った跡がまだらになってしまいます。

また、浄福寺の墓地は広いので、通路もあれば、周囲に土手もあります。一度に大勢来ていただき、墓地を含めた境内地の草を刈るところに大きな意味があると思います。多くの方は、文句も言わず、黙々と自分のお寺をきれいにしようと来てくれた人たちです。中には、お墓がそこに無くても来てくれています。人それぞれのお考えがあるのでしょうが、少し残念に思いました。

二つめは、来れない方には清掃冥加金を1,000円納めて頂いておりますが、「それを何に使うのか会計報告をして下さい。」ということでした。

冥加金（みょうがきん）というのは、知らずのうちに神仏から受けている恩恵（冥加）に対して支払うお金のことで、これは強制ではありませんし、罰金でもありません。来れない方が、来た人たちに対しての気持ちという意味もあります。そのお金で、草刈り機のガソリン代や、草を処分するためにトラックで運搬してくれている人に御礼としてお渡ししています。また、その草を捨てさせていただいている方にも、御礼（お金ではありません）をお渡ししています。また、浄福寺のご門徒さんには、境内に墓地のない方もおられますので、それをいちいち振り分けて報告するのは事務が煩雑となりますのでご容赦下さい。墓地の管理費として戴くのであれば、報告する義務がありますが、現状ではその必要はないと思っています。どうしても知りたい方は、直接お尋ね下さい。

三つめは、「人に頼んでしてもらえばいいのでは?」ということです。

そんなお金がどこにあるのですか?誰が出すのですか?それこそ管理費が必要になります。しかも、大事な墓地の清掃を人任せでいいのでしょうか?

時代が変わり、人の考えも変わってきましたね。以前には「浄福寺は清掃奉仕が多い」という苦情のお葉書を頂きました。とても残念です。

お釈迦様のお弟子に周利槃陀加（しゅりはんだか）という方がおられました。周利槃陀加は自分の名前すら覚えられない方だったそうです。そんな彼が「お釈迦様のお弟子になりたい。」と言いました。ただ、周りからは「愚かなお前が、お弟子になどなれるはずがない。」と反対されます。それでも彼は、直接お釈迦様に「お弟子になりたい。」と申し出ました。お釈迦様は、「周利槃陀加よ。そなたは愚か者と思うか?」と尋ねられました。彼は「私は愚か者です。」と答えました。お釈迦様は「自分のことを愚か者と思うものは、愚か者ではない。」と言い、一本の箒を渡し、「これで掃除をしなさい。ただ、掃除するだけでなく、『垢を払おう、塵を払おう』と言って掃除しなさい」と告げられました。周利槃陀加は言われた通りに、そのことを称えながら何日も何日もひたすら掃除をしたそうです。そして周利槃陀加は気づかれました。「掃いても掃いても塵は減らない。じゃあ掃くことをやめるかと。塵というのはどんどん積もっていくものだ。だからこそ掃除が必要なのだ。これは人の心と同じである。」と。そのことがあって、周利槃陀加はお釈迦様の十人のお弟子の一人になられたということです。

続きはまだあって、その周利槃陀加が亡くなった後に、お墓の横から茗荷が出てきましたので「茗荷を食べると物忘れがひどくなる。」という言い伝えが生まれました。そんなことは決してありません。むしろ茗荷を見たら、周利槃陀加のことを思い出していただければ嬉しいです。気持ちのない方には、無理に来ていただかなくて結構です。みんなできれいにするというところにご利益があり、大きな意味があるのです。

そして今まで支えて下さった先人たちに対する御礼という気持ちで清掃をするのです。

「おみがき」をしています

浄福寺清掃奉仕の御礼と次回のお願い

6月15日（日）に報恩講前の清掃奉仕を実施しました。今回は、下金原・下条・百木・下小野・上小野・高畑・初田・岩野・米山寺・芋島の23名のご門徒さんと常任委員9名の方が来て下さいました。いつも皆様からお手伝い頂き、心より感謝し御礼申し上げます。おかげさまで気持ちよく報恩講をお迎えすることができました。

清掃奉仕のなかで「おみがき」という仕事があります。仏具に薬をつけて、力をこめて磨くものなのですが、磨けば磨くほど、きれいな金色が現れてきます、それは、心がきれいになるのと同じだといわれています。力仕事ですが、これに懲りずにまた参加して下さい。

今まで3回来て頂いた方には、本願寺より取り寄せた記念品をお渡ししました。

次回のお煤払い清掃奉仕は12月14日（日）に7区・8区のご門徒さんにお願い致します。何卒ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

第67回『有縁講』のご案内

今年も赤倉ホテルが主催する有縁講に参加したいと思いますので、ご参加頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

有縁講は、「温泉で体の垢をとり、法話で心の垢を取り除こう。」がキャッチフレーズです。興味のある方は、是非ご参加下さい。

今年は、母の実姉が嫁いだ糸魚川市内の徳正寺様を参拝し、糸魚川方面を巡りたいと計画しております。徳正寺様は、糸魚川大火で奇跡的に火の手を免れた寺院で、すばらしいお内陣の荘厳があります。

また、ホテルの夕食（宴会）には、一人一杯のズワイ蟹が出てきますし、カラオケもあり、とても楽しい参拝旅行です。

記

期日　令和7年11月12日（水）～13日（木）

費用　20,000円程度の予定
（諸費が値上がりしました）

持ち物　12日の昼食　お念珠　着替え　洗面道具
保険証　常備薬　マスクなど

集合場所　12日柿崎地区公民館前10時出発
帰りは13日柿崎地区公民館着16時半頃

宿泊場所　徳正寺様（糸魚川本町）参拝　他
赤倉ホテル
（☎025-87-2001）

申込み〆切　10月26日　定員25名

第13回『チャリティーコンサートin浄福寺♪』のご案内

今年も皆様に元気と希望をお届けしたいと思い、「チャリティーコンサート」を開催致します。演奏する方々は年々パワーアップしています。是非、素敵な演奏を聴きに来て下さい。

会場ではマスクと消毒液を用意し、入場時に検温をさせていただきます。

どうぞご来場下さいますようご案内申し上げます。

入場無料ですが、募金箱を設置して「世界の子供たちにワクチンを　日本委員会」に寄付をしたいと思いますので、皆様からのご協力をよろしくお願い致します。

記

日時　11月23日(日)13時30分開場　14時開演

会場　浄福寺本堂

出演者と曲目
クレア（フォークデュオ）：地球へ　昴　ほか
ピアス（歌謡曲&ポップス）：め組の人　ファーラウエイ　ほか
楓井沙弥、太田綾希（ソプラノとピアノ）
アヴェマリア　アラベスク第一番
池野心結（琴）：朧月夜～祈り　斜影
アンデスの笛（南米音楽）：コーヒールンバ　コンドルは飛んでゆく　ほか

「3年弱前に結成。手作りの笛による和洋の音楽のアンサンブルや、南米の弦楽器チャランゴの伴奏でのフォルクローレと呼ばれる伝承音楽を演奏しています。ジャンルに捉われず耳に心地よい演奏を目指します。」　山崎伸

編集後記

今後共皆様方からの本誌へのご要望・ご意見、そしてご投稿をお気軽にお寄せ下さいます様お願い申し上げます。

編集　寺報編集委員会

印刷　㈱小田